

議題2 話し合いを守山の政策づくりに活かす方法（市民懇談会）

A（中山道グループ）

<人選について>

- A01 ■ 懇談会 ミニ守山
- A02 ■ 人選は公募無作為両方でやるべき
- A03 ■ 興味を引き出す方法として無作為も良い
- A04 ■ 人選について 年齢別 テーマ別（子育て介護）
- A05 ■ 関係者と話をすることは何も知らない人にとっては勉強になる
- A06 ■ シビリアンコントロール 自治会とのすみわけの議論が必要 行政懇話会に自治会を代表して発言する

○合意意見：公募制、団体推薦、無作為必ず3つで行う
理由）幅広い意見、地域の意見

<報酬について>

- A07 ■ 参加者はボランティアで良い（自分の町を良くしたいのだから・・・）

○合意意見：自分たちの町のためにしているものだから無償が当然！

<テーマと懇談会の回数について>

- A08 ■ 開催時期をどう決めるのか 土曜日日曜日も働いている人もいる
- A09 ■ 構想段階で話し合いを開くべき
- A10 ■ 話し合いのメリット 短時間で結論を出すテーマと長い間話し合うテーマもある
- A11 ■ テーマ設定はあらかじめするべきです 事務局が忙しい
- A12 ■ 策定—資料を前もって入手しておくが良い
- A13 ■ 行事等の意見を吸い上げるには半年前位から懇談会で図るべき
- A14 ■ 政策が決まった段階で意見を聞いても反映しにくい
- A15 ■ テーマ選定を予め決めておく

<話し合い通じ市の政策に反映するには>

<質問>

- A16 ■ テーマ毎の人選をしていないのか？

<懇談会の資料づくり・周知>

A17■市民を信頼している 市民がわかる市政をすることがこれから求められる 分かりやすい資料づくり

<大切な3つ>

市民×市役所

人選 公募 無作為 団体

B（ホタルグループ）

<無作為抽出>

- B01 ■ 無作為抽出ではなりたない
- B02 ■ 政策について反映 知識がない
- B03 ■ 無作為だけどカテゴリーの中から抽出したら
- B04 ■ 参加率にかかわる（前回の話しあいより）
- B05 ■ 学生には参加するカテゴリーがあると参加しやすい

<思い>

- B06 ■ 市民懇談会のための市民懇談会になっている
- B07 ■ 自分がどうしたい 自分がどう生きたい等 楽に取り組める 守山の魅力
- B08 ■ 市民活動の力を！！ 団塊の世代 社会のために 守山のために使って欲しい思い
- B09 ■ 現状 メンバー減少 カ
- B10 ■ 楽しくやりたい

<市の取組み>

- B11 ■ プランが出ているが市全体が集まって（他の課だけでなく）推進する姿勢が大切
- B12 ■ 他の課との連携が必要
- B13 ■ 各課から無作為抽出出席
- B14 ■ 庁内での推進も進める方向で動いている 推進会
- B15 ■ 職員異動もあるのでやるなら全体で
- B16 ■ 用具貸出 市が後始末をしてくれるが遅い！！ 早く

<市民の参加>

- B17 ■ 市民出席表（裁判員制度） ※どの程度出席しなければならないのか
- B18 ■ どうしたら参加してもらえるか工夫が必要
- B19 ■ 新しい人たち意見が通り難い
- B20 ■ 自治会の力が強い
- B21 ■ 団体に入っていない 公平に意見が言える
- B22 ■ 今まで参加してしていない人の意見
- B23 ■ 個人の考え 全体として考える

<テーマ>

- B24 ■ 話し合いのテーマを絞った方が意見が出やすい（具体的にのものが良い）参加しや

すい

B25■今日のテーマ①ぐらいの方がよい

B26■イメージが付きやすい

B27■興味のも湧く 当事者意識をもてるか もてないか

B28■カテゴリーを決めると時間も（出やす）決まるのでは

B29■テーマ2つはきつい ゆっくり話したい

B30■掘り下げたい

<開催時期 回数>

B31■策定段階で市民懇談会をしてもよいのでは？ 回を重ねる

B32■何度も回を重ねていくこと？

<大切な3つ>

1. 市全体で具体的なテーマを決める
2. カテゴリーに合わせて参加を募る（中心に）
（市民も無作為抽出に裁判員制度のように出席表をつける）
3. 初めから決定まで行う

C (菜の花グループ)

<メンバーの選び方 無作為 自治会代表>

- C01 ■ 無作為抽出だけでは自治会長は入れないのか？
- C02 ■ 自治会長の意見をどう吸い上げるのか
- C03 ■ メンバーが固定しないように 自治会の代表も入るべき
- C04 ■ 自治会は地域住民の代表
- C05 ■ 計画の途中で自治会が意見を言えるように、メンバーに自治会の代表も入るべき
- C06 ■ 同じ人が何回も出席するのは良くない
- C07 ■ 協働のまちづくりを実践している活動団体の代表がメンバーに入るべき
- C08 ■ テーマごとに参加者を絞るより、関係のない人も参加して意見をもらった方がいい
- C09 ■ ガス抜きに来る人もいる

<地域ごとに開催>

- C10 ■ 行政懇話会（学区ごと）はどうなるのか？
- C11 ■ 地域ごとに状況が違うので、地区ごとに実施のがいい
- C12 ■ 行政計画でも地域ごとに考え方状況が違う
- C13 ■ 障がいを持った人でも来やすいように地区ごとにやる

<参加促進>

- C14 ■ 普段からPRをして市政に興味を持ってもらうようにする
- C15 ■ 話合いの内容をホームページに載せる

結論：地域ごとの課題の共有化 回数

- C16 ■ パブコメに参加する人が少ない 福祉計画などもそれで通ってしまっている
- C17 ■ 市民説明会 パブコメまで自治会に情報が知らされていないのでは困る

結論：計画の進捗状況の告知（途中で）

D（メロングループ）

<タイミング回数>

- D01■市民からの声（押し上げ）で開催されるべき
- D02■審議会 委員会の中の位置づけでは 懇談会→委員会→懇談会の順
- D03■2回した方がよい 初期段階と審議会、委員会でまとまった段階
- D04■テーマを細かくすれば毎月開催することも可能ではないか？
- D05■毎月開催だと、無作為の場合 メリットが必要

<参加対象>

- D06■慣れた人を入れないと議論が錯綜してしまう
- D07■無作為でやればやるほど混乱を招くのではか
- D08■こうなったらいいなというレベルでの関係が良いのでは（例）子どもたちの未来
- D09■テーマによって参加ターゲットを絞る
- D10■ターゲットを絞り出向く市民懇談会
- D11■無作為ではなく 専門知識を持った人を対象に
- D12■初期で意見を言うには自分の知識が追い付かない
- D13■説明会を通して意見を言う結論：ターゲット（参加者）を絞ることも必要

<資料づくり>

- D14■無作為抽出の素人では、資料を工夫しないと厳しい
- D15■資料作成が大切ではないか

<意見の反映結果>

- D16■100人委員会 市に対してものごとくも言う 結局採用されないとフラストレーションがたまる
- D17■自分の意見がどうなったか見える化が必要
結論：結果の見える化が必要

<その他>

- D18■まず、どんな計画等、今、市がやっている知る事が重要では？